

# 高知市共通アセスメントシート記載マニュアル

## 高知市共通アセスメントシート

- 1 基本情報シート
- 2 アセスメントシート
- 3 課題整理総括表
- 4 基本情報シート（A4印刷シート）
- 5 入退院時情報提供シート

### （高知市共通アセスメントシートの特長）

1～5の各エクセルシートに共通項目がある場合は、数字の若いシートの入力内容が各シートに自動反映される。

## 【高知市共通アセスメントシート活用の手順】

**手順1** 基本情報シートと、アセスメントシートの「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「その他」「特別な状況」5つの領域の全項目の実行状況を把握し記載する。  
基本情報シートは、各事業所で使用するアセスメントシートで代用可能。

**手順2** アセスメントシートを活用し、利用者の生活課題を分析する。抽出した生活課題は、居宅サービス計画書の生活全般の解決すべき課題に記載する。

## 【アセスメントシート作成（課題分析）の流れとポイント】

### ①現在／②備考・詳細な状況

- 項目ごとに、利用者が「現在」している、介護を受けている状況を確認し記載する。  
現段階では、できるかどうかではなく、ありのままの状況を記載することが重要となる。
  - ◆ 自立・見守り・一部介助・全介助
  - ◆ 支障あり・支障なし / できる・できない 等を選択する。  
支障があるか判断がつかない場合は、リスクがあるかで支障あり、なしを判断し記載する。
  - ◆ 「備考・詳細な状況」を簡潔に分かりやすく記載する。自立の項目を含め、詳細な実行状況を記載すること。また①「現在」欄に何を選択し記載するかより、②「備考・詳細な状況」に記載する内容を重要視すること。

### ③環境因子・個人因子

- 環境因子  
人的環境（家族・地域住民・専門職・人間関係）、物的環境（自宅環境や自宅周辺環境）、保険や制度等の促進因子、阻害因子を記載する。
- 個人因子  
職業、経験、意欲、力、性格、価値観、趣味、特技等の促進因子、阻害因子を記載する。
  - ◆ 促進因子（強み）、阻害因子（弱み）を視る際は、客観的情報（課題分析シート・基本情報シート）から、ケアマネジャーが主観的に捉えた因子を引き出し、判断根拠を明らかにすること。

## ④健康状態

- ④健康状態欄は、基本情報シートに記載した「現在の受診状況・病名」内容が転記されるが、現病名だけでなく、心身や生活に影響している未加療、既往の病名、体調や健康に影響を与える状況を記載する。

## ⑤できること・できそうなこと / ⑥根本的な原因・課題 / ⑦原因

### ●⑤できること・できそうなこと

生活歴、生活に対する意向、ACP、家族関係、残存機能等の基本情報シートの情報に加え、①現在／②備考・詳細な状況、③促進因子、④健康状態の情報を統合し、現状に至った原因を分析しつつ、改善する見込みがあるのか、維持に留まるのか、予測される将来の具体的な生活の状態像、実行状況を記載する。

### ●⑥根本的な原因・要因

⑤できること・できそうなことを検討しつつ、①現在／②備考・詳細な状況と、⑤できること・できそうなことに差を生じさせている阻害要因を探り、⑥根本的な要因・課題欄に記載する。阻害要因は、心身機能、医療面、環境、個人因子から、多面的に捉えることを意識する。各項目における要因は重複すること、自立した生活の阻害する問題であることを理解する。

### ●⑦原因

⑥根本的な原因・要因であがった、自立した日常生活の阻害要因を「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「その他」「特別な状況」5つの領域の「現状」ごとに、該当する⑥の番号を記載する。一項目に記載する原因は、一つとは限らず複数になる場合がある。

## ⑧問題・ストレングス

### ●問題

「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「その他」「特別な状況」5つの領域それぞれの問題点を総括して記載する。⑥⑦の検討過程で、各領域の項目に原因・要因がどう影響して、どのような状況になっていることが問題なのかを記載すると分かりやすい。

なお、表出している問題だけでなく潜在的な問題(将来的に起こる,悪化する問題)にも着目する。

### ●ストレングス

「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「その他」「特別な状況」5つの領域それぞれで分類した問題に対して、③で分析した環境・個人の促進因子(ストレングス)がどう影響するのか分析し記載する。(～といった問題はあるが、本人は〇〇という経験や能力、気持ちがあるなど)

## ⑨見通し

### ●見通しの記載方法

見通しについては、多職種から見た問題解決に繋がる専門的知見を活かしつつ「〇〇することにより、〇〇となることができる」といったように、⑧問題に対して、解決に必要な支援内容と、問題を解決した状態や生活状況を記載する。領域の各項目で分析した⑦原因の解決に繋がる内容となるよう、またケアプランの有効期間を考慮した実現可能な見通しとなるよう留意すること。

見通しを記載する際の注意点として、サービス種別を記載しないように意識すること。サービス

種別は『全ての見通し』を立てた後、ケアプラン2票作成時に「⑥根本的な原因・要因＋⑧問題」の解決に向けて、総合的かつ効果的に支援できるサービス種別を、フォーマルサービス、インフォーマル支援から位置付ける必要がある。

(見通しの記載例)

**例①** 脳梗塞の既往があり血糖・血圧コントロール不良の利用者

食事指導により、食事内容を変更し、内服の継続、自主運動を行うことで、糖尿病・高血圧症の悪化、脳梗塞等合併症の再発予防ができる。

**例②** 歩行機能等の廃用により動けなくなり排泄の失敗がある利用者

栄養改善と身体機能向上の訓練、環境整備を行うことにより、トイレまで伝い歩きができ、自分でトイレにて排泄できる見込みがある。

● 見通し（生活課題）のまとめ方 ～情報の統合と分析～

「⑦原因」を記載することで、各領域項目の阻害要因（問題）が明らかになり、なおかつ阻害要因（問題）が重複していることが見えてくる。重複した原因に対する課題は、一部の問題が解決に向かうことで、原因が重複する他の生活行為も改善に向かうため、見通しを立てる段階で分類し整理しておくとう分かりやすい。

アセスメントシートの5つの領域である心身機能、身体構造、活動、参加、その他、特別な状況ごとに、関連する生活動作（生活行為）の見通しを分類して記載することで、利用者や家族、支援者に分かりやすい生活課題となる。

(領域別の問題の統合例)

- ◆ 排泄 ⇔ 排泄機能・起居動作・移乗・移動・座位保持・更衣・排泄動作等
- ◆ 入浴 ⇔ 起居動作・移乗・移動・座位保持・段差昇降・更衣等
- ◆ 買い物 ⇔ 起居動作・移乗・移動・段差昇降・認知機能・金銭管理
- ◆ 食事 ⇔ 起居動作・移乗・移動・段差昇降・買い物（外出）・調理
- ◆ 掃除 ⇔ 起居動作・移乗・移動・段差昇降・座位保持
- ◆ 趣味活動 ⇔ 起居動作・移乗・移動・段差昇降・外出・認知機能・コミュニケーション等
- ◆ 健康管理 ⇔ 受診・服薬・医療行為・食事内容・運動等

健康管理は、分類化せず単体の見通し（課題）として扱うことができるが、他の生活行為の実行状況に健康状態（認知機能を含む）が影響を及ぼす場合は、他の生活行為の見通し（課題）に健康管理を含めた方が分かり易い場合がある。

## 生活全般の解決すべき課題

●見通し（改善・維持の可能性）を立てた内容に、生活歴、生活に対する意向、ACP、家族関係、健康状態等を踏まえ、優先順位をつけた見通しが生活全般の解決すべき課題となる。

### ●優先順位の付け方

優先順位の付け方は、利用者ごと、また状況や支援者の情報収集と分析結果により異なるが、基本的に以下4点が優先される。

- ◆ 生命の維持に影響のあるもの
- ◆ 利用者や家族との合意形成が得られ易いもの
- ◆ 達成感が得られ易く、自己効力感を高められるもの
- ◆ 利用者の個別性に着目した、社会参加や役割＝生きがいの獲得に繋がるもの

(ポイント)

- ◆ 生命維持に影響する、また苦痛を伴うような医療ニーズを最優先すべき  
例：痛みが強く動けない人に、いきいき百歳体操に出かけ友人と体操し話そうと言っても実行不可能。
- ◆ 優先順位の付け方で、段階的に取り組むべき内容、順番に矛盾がないか。  
近所の公園まで散歩に出かけることができる⇔1人で朝刊や郵便物を取りに行くことができる等、課題同士でも、「これができたら、これは達成できる」という動作に関連性があることを理解して、生活全般の解決すべき課題に優先順位を付ける。
- ◆ ケアプランに反映できなかった課題については、課題整理総括表※6の優先順位記載欄に(－)印を記入する。

# アセスメントにおける情報の統合と生活課題の分類化イメージ

利用者の意向・なりたい自分と生活（生活歴・生活の意向）

